

令和4年度天皇杯受賞者受賞理由概要
林産部門

継続的な収益と150年後に高資産価値林を生み出す持続的経営林づくり

○氏名又は名称 渡邊 定元

○所在地 静岡県富士宮市

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

富士宮市は、富士山の南西麓の火山性地質の緩やかな傾斜地と富士川流域の構造山地の急峻地にあって、温暖で湿潤な気候に恵まれている。施業地の集約化と路網整備と合わせた車両系の作業システムの展開により現在県内でも有数の林業地となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

農林水産省職員、東京大学教授等を経て、林業経営体である株式会社白糸植物園を設立し、平成6年から現在までの28年間、それまでの自身の研究成果を活かした林業に従事してきた。小規模所有の森林を中心に集約化を行い、将来木候補の成長の妨げとなる準優占木を間伐対象とした中層間伐を繰り返すことで継続的に収益を得つつ150年後には優良木100本/haの高収益林を造成することを目標とした「持続的経営林づくり」を進めてきた。令和3年度時点で、富士山南麓域1,000ha余の森林所有者と森林経営受託契約を結び、森林経営計画を作成して持続的経営林づくりを実施しており、これまでに数千万円の間伐収益を所有者に還元してきた。

・受賞者の特色

(1) 持続的経営林の造成

高い資産価値を持つ持続的経営林を造成するため、中層間伐とそれによる同齢択伐林施業が実施されている。また、大型フォワードダ走行を可能とした幹線作業道をはじめ、強度の降雨に耐える防災水源涵養路網を整備し、生産性の高い作業システムを構築している。

(2) 自然環境、労働環境に配慮した取組

持続的経営林は、成長量を持続させた高齢級の森林造成のため、炭素の吸収能力維持と炭素貯蔵を両立させ、大気中のCO₂濃度の低減に寄与するものである。また、防災水源涵養機能を有する路網の高密度な整備により林地への車両系機械の侵入を最小限として林地保全を図るとともに、伐採・造材作業機械の導入が容易となり作業者の労働負荷を軽減している。

・普及性と今後の発展方向

静岡県で展開された「富士森林再生プロジェクト」において持続的経営林づくり等についての提案、指導を行うほか、NPO法人「富士山自然の森づくり」の技術指導を通じて地域ボランティア活動の活性化に大きく貢献してきた。今後、森林経営計画の対象林を1,400ha以上に拡大し、地域に持続的経営林を普及し、森林所有者の継続的な収益を確保しながら、林齢150年生の森林で1,000万円/haの資産価値を持つ森林の造成を目標としている。